

日野振興 センター だより

hino

Hino Development Center Daiyori

平成 28 年 3 月発行 no. 12



関連イベント hina no event

奥大山ひなまつりコレクション

📅 H28.3.27 (日)~4.3 (日) 🏠 JR江尾駅周辺
☎ 奥大山ひなまつりコレクション実行委員会
(江府町文化協会事務局) 0859-72-3122

古民家沙々樹 雛公開

📅 H28.4.1 (金)~4.3 (日) 🏠 古民家沙々樹
☎ 古民家沙々樹 0859-72-1350

※写真は上記イベントで以前展示されたものです



日野郡に
春を知らせる
こびなたち

menu

- ・子ども達に引き継ぐ
- 日野川の源流と流域を守る会 設立15周年-
- ・移住者と地元民 交流深める
- ・日野郡中山間営農ネットワーク協議会を発足

- ・モミサブローによる白ねぎの排水対策
- ・道の駅「にちなん日野川の郷」いよいよオープン
- ・新たに始動 日野軍★春の陣
- ・鳥獣被害対策の Point - 春 -

新たに始動 日野軍★春の陣

郡内の地域団体が構成される日野軍★みらい創生デザイン会議によって、昨秋も“日野軍★秋の陣”が開催されました。

郡内の秋季イベントを一つにまとめて発信するこの取組は、多くの地域団体の協力によって行われ、県西部を中心に認知度が高まってきました。

デザイン会議では、今後、秋に加えて春夏イベントの情報発信や開催日の調整などによる効果的なイベント運営支援を展開していく予定です。

これからも多くの地域団体協力のもと、日野郡一丸となった盛り上がり期待されます。



2016 開催予告

- ・新たに“日野軍★春の陣”を開催。春～初夏のイベントをまとめたチラシを発行し、3月下旬頃に日野郡全戸に配布予定。
- ・もちろん秋の陣も開催。

秋の陣2015レポート

- ・イベント盛りだくさん、50日間で70件開催
- ・メディア露出が増えて日野郡の注目度アップ
- ・奥日野五山や古民家ネットなど団体間の連携が進む
- ・アンケートによると来場者の、
98%が参加イベントに満足
77%が郡外から来場
20%が秋の陣パンフレットでイベントを知って来場

問 | 日野振興局 地域振興課 電話:0859-72-2086 FAX:0859-72-2072

鳥獣被害 対策の Point 春

今年もそろそろ農期が始まりますが、ワイヤーメッシュ柵の点検はお済みですか？
次の点に気を付けて、点検してみてください。

Check Point

1 倒木等による変形

倒木を除去し、ワイヤーメッシュを修復します。修復困難な場合は張り替えてください。

2 動物の侵入痕

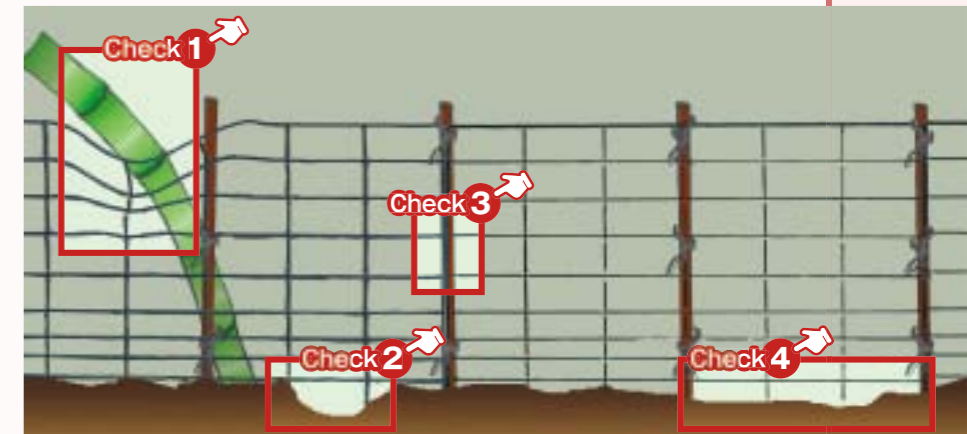
石を詰めたり、穴を埋め戻すだけでは、すぐに掘り返されます。掘られたところに鉄柱を刺し、ワイヤーメッシュと結束します。その後、穴を埋め戻してください。

3 結束線の劣化

3か所結束されているか確認します。また、柵を揺すって結束のゆるみや切断がないか確認してください。劣化している箇所は新たに結束し直してください。

4 地面の沈下

柵の下側を軽く蹴って、柵が振動する場合は地面にしっかりと刺さっていない証拠です。このような箇所は集中的に攻められ、2の状態になります。ワイヤーメッシュをしっかりと地面に刺し直してください。また地面が柔らかい場合は、柵の外側に30cm幅に切ったワイヤーメッシュを敷くのも効果的です。



問 | 日野振興局 農業振興室 電話:0859-72-2005 FAX:0859-72-2011



子ども達に引き継ぐ 日野川の源流と流域を守る会 設立15周年

ふるさと日野川の源流と流域の環境保全に取り組み、今年で設立 15 周年を迎える『日野川の源流と流域を守る会（以下、「源流の会」）』（会長・豊島良太鳥取大学学長）の総会が2月19日に西部総合事務所講堂で開催され、約150人が参加しました。



里山管理の重要性を提言する大住教授

いままです。
その他に通常の活動として、森や川を守る活動（日野川の一斉清掃及び生き物調べ、外来種除去ボランティア及びわくわく自然体験）、歴史・文化、自然を学ぶ活動（自然環境とオオサンショウウオを守る体験活動、日野川源流探訪、奥大山古道を歩く）、上流域と下流域の交流推進（間伐などの森林整備体験交流及び県植樹祭参加、海岸清掃及び日野川河口・海岸の学習体験）と充実した内容を展開していきます。

日野川×里山

総会后、鳥取大学農学部生物資源環境学科の大住克博教授に『日野川と里山の生態系と管理』と題して講演いただきました。大住教授は、「日野川流域には里山林が多く存在しており、身近にありながら、里山林についてあまり意識していないのが現状ではないでしょうか。そのような中、里山林は天然の林とは大きく異なったもので、ほとんどは人の利用により作られたコ

ナラ林でした。その利用が止まり、里山のコナラ林は不安定化し始めている。これを良い形で維持していくためには管理が必要ですが正解はなく、里山の保全に関して地域で意見を出し合い、管理技術の有効性を確かめながら取り組むことが大事。」と提言しました。

源流の会は平成14年4月22日に設立され、美しい日野川を次世代に引き継いでいくため様々な活動をしてきました。今後は、更に関係団体と活動交流や連携・情報交換を行い、これからの源流と流域のあり方を提案し行動するため、次世代を担う子ども達の育成に力を入れながら継続して活動していきます。

問 | 日野振興局 地域振興課 電話 :0859-72-2080 FAX:0859-72-2072

平成 28 年度は “日野川流域の森や水に親しむ活動支援” を拡充します

拡充内容

- ①支援限度額 7万円⇒**10万円** /1 団体 ※会員は 10万円⇒**15万円**
- ②支援団体数 3 団体⇒**5 団体**

源流の会では、子どもたちや流域に住む方々に、ふるさと日野川の源流と流域の自然環境、そしてこの自然と関わる生活文化を守り育てていくことの大切さを体験を通して理解してもらいたいとの思いから、源流と流域の森や水（水辺）に親しみ学ぶ活動を支援しています。

支援対象となる活動

- ・日野川及びその流域の森で行われる、森や水に親しみ学ぶ活動やイベント
- ・親睦やレクリエーションだけでなく、森や水辺の自然やこれらに関わる歴史・文化などを学ぶことが盛り込まれた活動

支援対象となる団体

米子市、境港市、西伯郡又は日野郡に所在する小中学校、PTA、会社、企業グループ、自治会、子ども会、公民館、ボランティアグループ、NPO 団体など

支援対象となる経費

借上料、資機材購入費、講師謝金・旅費など

支援限度額

1 団体当たり 10 万円（会員は 15 万円）

申請の方法

支援を希望する団体等は、事業実施の 20 日前までに、申請書に活動計画書を添えて提出してください。（詳細はお問い合わせください。）

申請、問い合わせ先

日野川の源流と流域を守る会事務局
電話 :0859-72-2080 FAX:0859-72-2072

キャラクターが大使に

総会では新年度の活動方針として「将来を担う子ども達の積極的な育成」、「日野川流域の素晴らしさを積極的に発信」、「関係団体と連携を深めより良い活動を実施」について拡充して取り組むことを確認しました。

新年度は、15 周年記念事業として様々な取り組みを計画しています。この日は、団体会員のキャラクターである「オッサン ショウオ（日南町）」、「パイロットマン（江府町）」、「バッキン☆マン（米子市水道局）」を、今後、会の活動を盛り上げるために協力してもらう「日野川源流大使」として任命しました。

その他にも、源流の碑までの新たな看板整備、イベント時の缶バッジラリー、15 周年記念植樹、子ども達の育成を強化するための源流親子会の新設と多くの記念事業を予定しています。

充実した活動を展開

また、日野川流域憲章記念事業として、日野川流域の美しい



日野川源流大使として任命されたキャラクターたち
(左から、バッキン☆マン、豊島会長、パイロットマン、オッサンショウオ)

写真を集めたフォトコンテスト作品展を大山自然歴史館などで開催するとともに、写真塾を開催してメッセージャーを育成するなど、日野川の素晴らしさを広く発信するために取り組んで

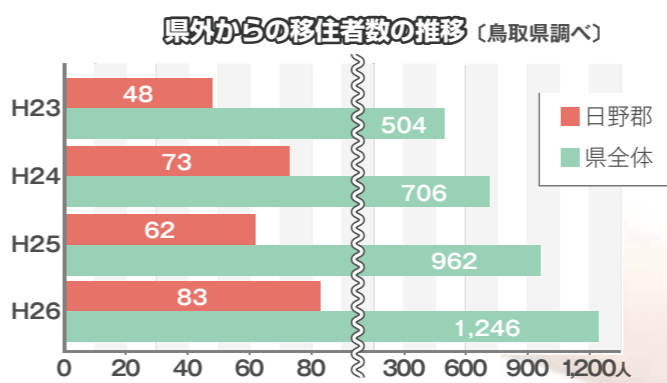


移住者と地元民 交流深める

少子高齢化によって人口減少が進む中、多くの人が日野郡に移住されています。共通点の多い移住者同士が、お互いのことを知ることによって、豊かな生活を望む人が増え、田舎暮らしの関心が高まっています。

増加する日野への移住

近年、人々の価値観の多様化によって、豊かな自然環境に囲まれた中での生活を望む人が増えており、田舎暮らしの関心が高まっています。県の調査によると、平成26年度に県外から鳥取県へ移住してきた人は1246人で、全国でもトップクラスとされており、その数は年々増加しています。日野郡も同様に増加傾向で、移住相談会や空き家バンク制度など、各町が移住者増加に向けて進めてきた取り組みの成果が出てきています。



また、都市部から地方に移り住み地域の活性化に取り組み、地域おこし協力隊も増えており、郡内でも多くの協力隊員が地域を元気にしようとする様々な活動に励んでいます。

交流の輪を大きく

郡外から日野郡へ移り住むという共通点を持つ移住者の皆さんは、困りごとを相談し合うなどお互いに助け合えることも多いですが、町が違えば知り合う機会も少なく、これまであまり交流ができていませんでした。そこで、移住者同士がお互いのことを知り、ネットワークを広げるきっかけとなるように、地元住民を交えた交流会を日野郡3町と日野振興センターが協力して2月19日に日南町総合文化センターで開催しました。

交流会には、移住者や地元住民が約70人参加し、地元有志によって提供された暖かい手作り料理や、日野郡に関するクイズ

ズ大会を楽しみながら、初対面同士でも和やかに親睦を深めていきました。開会にあたり日南町の増原町長は、「地域おこし協力隊の皆さんは、任期中を有意義に過ごして、日野郡に残る基盤を作ってほしい。また、地元の皆さんには移住者を温かく迎え入れてもらう地域であってほしい。」とあいさつ。

日南町に移住した後藤知也さんは、「ここに移り住んで1番気に入ったのは人の優しさ。この交流会を機会に人との繋がりを広げたい。」と話し、江府町の圓山加代子さんは、「色々な人と繋がるのができた。またみんなで集まって、交流の輪をもっと大きくできたら嬉しい。」と今後への期待を語りました。

日野郡3町と日野振興センターは、今後も協力して移住者の交流を深める取り組みを進めていきます。

道の駅「にちなん日野川の郷」いよいよオープン

道の駅「にちなん日野川の郷」(日南町生山)が、4月22日(金)にオープンします。この駅は、道の駅「奥大山」(江府町佐川 平成27年4月開設)に次いで郡内2番目の道の駅となります。

どんな駅になるの？

現在、日南町が進めている「コンパクト・ヴィレッジ構想」の中核として整備され、人・もの・サービス・情報を集め、それらを結びつけて効率的に展開・発展させることで、「新たな地域づくりの場」を創出しようとするものです。

その企画内容は、国土交通省から効果的な取り組みが期待できると高く評価され、「重点道の駅」(平成26年選定、全国35箇所のひとつ)に認定されました。

どんな施設があるの？



農産物直売所とレストラン、農産物加工場などの建物4棟と駐車場(83台収容)で構成。

このうち、主要施設を日南町が整備、トイレ・情報提供施設と駐車場の一部を鳥取県が整備するという、町と県のコラボレーション(いわゆる「一体型」)により実施しました。

どんな材料でできているの？

木材の全てが、日南町産のスギ・ヒノキを町内の工場加工したもので、「木のまち日南」を象徴する建物です。((株)オロチ…LVL※1、(株)ウツ



道の駅内部の構造材(LVL)

ドカンパニーニチナン…無垢製品)

また、木材は環境等に配慮したFSC※2認証材で、日

南町の「森林資源を循環させながら、適切な森林管理を行っている林業事業者の支援、ひいては森林保全を推進する」という取組をPRします。



軒部分はヒノキの無垢製品を使用

※1…単板を繊維方向に揃えて積層、接着した木質軸材料。
※2…森林の管理や伐採が環境・地域社会に配慮して行なわれていることを、信頼できるシステムで評価・認証する国際認証制度。日南町の森林面積3万haのうち、2万haがFSC認証林。

運営の特色は？

ドライブインの役割のほか、地場産業を創出し、地方移住や障がい者雇用等の福祉支援の拠点機能も担う「まちの駅」という側面も持っています。地域の強みである農産品や、未利用食材を活用した商品開発、町内産木材を活用した木工品や家具の製造を行い、道の駅を拠点として販売と全国に向けた情報発信を行うことで、広く町外から人の呼び込みを図ります。

更に、環境に配慮したまちづくりを進めるため、全国初の取り組みとして「カーボンオフセット道の駅」を展開します。これは、全商品に1円上乗せし町内の森林整備に充てるといふ、林業のまちにふさわしい独自の運営スタイルです。また、道の駅を中心に環境に優しい電気自動車の巡回バスを運行し、観光客の周遊性を高めるとともに住民にも便利な公共交通とします。

第61回鳥取県植樹祭の式典等が、5月29日(日)に道の駅「にちなん日野川の郷」を中心に開催されます。皆さんぜひご参加ください！

問 | 日野振興局 農林業振興課 電話:0859-72-2018 FAX:0859-72-2125
日野県土整備局 道路整備課 電話:0859-72-2066 FAX:0859-72-0400

日野郡中山間営農ネットワーク協議会を発足

日野郡では、平場に比べて条件不利地が多く、営農において中山間地特有の問題を抱えています。これまでは、集落単位など単体地域で問題解決に向けて取り組んできましたが、それだけでは解決しないこともあります。

そのため、地域や営農組織がお互いに知恵を出し合い、協力して解決に繋げていくために中山間営農ネットワーク協議会を発足します。

この協議会では、先進地視察や意見交換会などの全体活動や、個別の地域同士を結びつけ交流を促進する活動などを想定しています。

日野農業改良普及所や鳥取西部農業協同組合などが郡内の集落営農組織や地域の中心となる大規模経営体などに加入を勧めており、発足式は農作業が一段落する時期に予定しています。(1月26日に開催された日野郡集落営農ステップアップ研修においても参加者にご案内しています。)

問 | 日野振興局 日野農業改良普及所 電話:0859-72-2028 FAX:0859-72-2090

地域営農でお困りごとを抱えていたり、他地域と連携を進めていきたいと考えている世話役・リーダーなどは、気軽にお問い合わせください。

日野郡中山間営農ネットワーク協議会

<活動内容>

- ・連絡先リスト及び会員組織紹介カードの作成、共有
- ・年1回程度の視察研修
- ・交流会、意見交換会の実施

<運営体制>

- ・事務局 鳥取西部農業協同組合 営農部営農企画課
- ・会費 2,000円程度 / 組織
- ・役員3名程度(各町1名)、規約作成

モミサブローによる白ねぎの排水対策

白ねぎ栽培では排水の悪いほ場に植え付けると、根傷みによって生育が抑制され、土壌病害の発生も多くなり、収量が低下してしまいます。そのため、ほ場の排水を良くすることは栽培上、非常に重要なポイントとなります。

日南町の吉川徹さんは、これまで額縁明きよや、サブソイラ(耕盤を破碎する機械)による耕盤破碎などで、白ねぎ作付ほ場の排水対策に取り組んできました。しかし、それでもなかなか満足のいく排水効果が得られないため、平成27年に疎水材心土充填機(商品名:モミサブロー)を新たに導入しました。モミサブローは、サブソイラで耕盤破碎しながら、出来た溝に粉を充填することで、みず道を確保する機械です。

吉川さんは、「これまでよりも雨の後の排水が良くなり、生育のムラもなくなった。」とその効果を感じていました。



モミサブローをセッティングしたトラクター



未施工のほ場 モミサブロー施工のほ場 ※いずれも H27.8.26 撮影 (台風通過後)

問 | 日野振興局 日野農業改良普及所 電話:0859-72-2026 FAX:0859-72-2090